



赤こんりポート 馬場利男リポーター



力作ぞろいの子ども作品展が開催

11月16日～22日まで老蘇コミュニティセンター多目的ホールで、老蘇こども園と小学校の子ども作品展が学区まちづくり協議会の主催で開催されました。

園児は、3歳児全員で2枚に思いおもいの絵を、4・5歳児は1人ひとりが力強い絵をのびのび表現していました。小学生は、学年全員の書道や粘土で作られたシーサー、パズルや絵など力作が展示され、見に来た保護者から「上手に書いているね」と子どもに声をかけていました。19日には、健康推進協議会の皆さんが行った「親子で食べ物クイズ」で、子どもたちはプレゼントをもらいました。

また、同時に開催された「ふくよか写真展」では、学区内で米寿を迎えた人のすてきな笑顔も展示されました。

赤こんりポート 松村美沙枝リポーター



旧市街地をもっと元気に！ 仲屋町が主役の「スワイバザール」

毎月第3日曜日、酒遊館の屋外スペースで開催されている「スワイバザール」は、昨年5月から始まった旧市街地の仲屋町を盛り上げるマルシェ。毎月のテーマに合わせて、出店者が趣向を凝らしたメニューを楽しめるのもこのマルシェの特徴のひとつ。11月のテーマは『お米』。米農家さんの炊きたてご飯食べ比べと、さまざまなお店の「ご飯のお供」を自由に盛り付けられるコラボスタイル。主催の松岡宏行さんは「近江八幡全体が盛り上がりとともに、ゆくゆくはいろんな人が心から街を楽しんで練り歩けるポーターレスなエリアになれば」と話していました。

赤こんりポート 今井良治リポーター



八幡中学校のゆるキャラ「でっちくん」誕生！

昭和59年5月創刊以来、登校日に1日も欠かさず発行されている八幡中学校の生徒会新聞「輝け！八中みんなの学校」。2月17日に到達した8千号の節目を記念し、全校生徒などからの公募で誕生した学校のゆるキャラ「でっちくん」の着ぐるみお披露目会が11月22日、校内で開かれました。地元伝統の和菓子をイメージした着ぐるみ作りは、「地域に愛される学校にしよう」という生徒会の強い思いで左義長保存会や学校サポーターなどとプロジェクトを立ち上げ、共同作業により完成しました。この日は、3年生の生徒会役員や製作に協力した人たちに加え「赤コン君」も飛び入り参加し、にぎやかにデビューを祝いました。

赤こんりポート 東恵子リポーター



リズムに乗って仲間づくりを

さまざまなダンスの動きを取り入れ、みんなが無理なく踊れるダンス「レクダンス」。公益社団法人日本フォークダンス連盟が普及しているダンスの1つで、「いつまでも若々しく健康でいられる」と勧めています。

11月25日に安土コミュニティーセンターで「体験しよう！レクダンス普及講習会」が開かれ、初体験者を含めて約70人が参加しました。

県が運営するレイカディア大学（60歳以上の学びの場）で友達同士になったという市内在住の女性2人は、「初めて参加しましたが、生き生きと踊られている姿、見習いたいです」と話していました。

11月20日



あそびながら運動を楽しもう！ キッズフェスティバル開催

運動あそびを通して「人づくり・仲間づくり・地域づくり」を学ぶ「キッズフェスティバル」がヴォーリス学園浅小井人工芝グラウンドで開催されました。集まった子どもたちは、びわこ成蹊スポーツ大学の学生やヴォーリス学園高校サッカー部の生徒と一緒に、くつ飛ばしやドリブル鬼ごっこ、高く蹴り上げたサッカーボールのキャッチなど、楽しみながら体を動かすことの大切さを学びました。主催したヴォーリスコーチングアカデミーの松田保所長は「子どもたちが体を動かすことを楽しいと思い、その中で仲間を作りながら自立と共生を学んでほしい」と話していました。

11月21日



不登校やひきこもりを孤立させない サポートブック発行

「ここから始まる不登校プロジェクト@近江八幡」が、不登校やひきこもりに悩む子どもや保護者に、相談窓口などを紹介する「不登校／ひきこもりサポートブック」を作成しました。冊子には、保護者だけでなく不登校を経験した若者の意見も取り入れられ、公的機関や医療機関の情報に加えオンライン参加が可能な団体の情報が掲載されています。同団体の永峰美佳代表は「相談先が分からないといった保護者は少なくない。当事者だけでなくみんなが不登校について考えるきっかけになれば」と話し、自身も不登校を経験し編集とデザインを担当した永峰さんの長男悠勝さんは「自分のパズルに合うピースを見つけてほしい」と、表紙に込めた思いを話しました。冊子は、市社会福祉協議会で無償配布されています。

12月5日



長きにわたる育樹活動で 安八いちまる会が全国表彰

八幡公園内の花や樹木の整備に取り組む「安八いちまる会」が、全国育樹活動コンクールで国土緑化推進機構理事長賞を受賞されました。同会は、「退職男性居場所探し講座」で出会った仲間が、講座終了後も交流を続けたいとの思いで平成23年に発足。10年以上、ツツジを中心に八幡公園内の樹木の植樹や育樹、枝葉の剪定や草刈りのほか、花が咲き終わった後の清掃などに取り組まれています。同会の梶田耕自会長は「ツツジの名所として知られるこの地を『近江八幡の財産』として取り戻したいと思い、活動を始めました。ここ数年、親子で訪れる人が増えてとても喜んでいきます。今後も活動を続けていきます」と話していました。

12月10日



松前町から贈られた桜の苗木を植樹

北海道松前町から贈られた桜の苗木の植樹式が、八幡公園で行われました。同町と本市は、江戸時代に八幡商人が北前船で渡り、経済産業の発展に尽力した歴史的ゆかりがあり、昭和59年、全国滋賀県人会の橋渡しにより、郷土芸能の江州音頭を通じた交流から姉妹都市提携を結びました。平成16年、旧市の市制50周年を記念して同町から贈られた5本の桜が公園に植えられています。その内の1本が枯れたため、近江八幡観光物産協会が植え直しを提案されたところ、同町から同じ品種の桜「関山」の苗木が再び贈られました。同協会の森嶋篤雄会長や民間交流団体の松前・姉妹知ってる会の樋渡哲也会長と小西理市長で植樹を行い、両市町の末永い交流と桜の成長を願いました。